

お客様 各位

サービス工場各社 御中

昭和飛行機工業(株)

品質保証部、カスタマサポート課

拝啓、貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

弊社タンクローリーの保安基準上の定期点検時の「留意点」を送付致します

のでご活用頂きます様お願い申し上げます。

冬季前のリレー・バルブメンテナンス  
及び、エアタンク水抜き

点検箇所	リレー・エマージェンシ・バルブ、エアタンク	点検時期	冬季前		
点検項目	作動状況、漏れ	点検方法	聴音・目視	点検種類	法定点検、メーカー推奨

## 確認部位

## トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

\*\*\*ブレーキ機器の水分除去のお願い\*\*\*



ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

## トラクタとトレーラエア・タンクからの水抜き

エア・タンクからの水抜きは、道路運送車両法で使用者または運行する人により日常(運行前)点検することが義務付けられており、車両を安全に運行するために非常に重要なことです。

エア・ドライヤを装着した車両においても水抜きを励行し、車両の安全な状態を確保してください。

※エア・タンクから多量の水分が排出される場合は、エア・ドライヤの機能が低下している可能性があります。

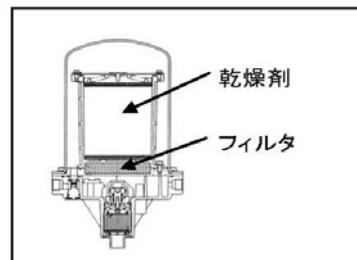
## トラクタのエア・ドライヤの点検整備

ブレーキ用エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬期においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

乾燥剤やフィルタなどの交換時期等については各トラクタ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。



エア・ドライヤの例



エア・ドライヤ内部構造(交換部品)例

確認部位(続き)

**トレーラ リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備**

リレー・エマージェンシ・バルブはトラクタから送られたブレーキ用エアをコントロールし、トレーラ各輪のブレーキを作動させる重要な機能を有しています。

ブレーキ用エアに水分や埃が含まれているとブレーキ機器の作動を妨げ、さらに凍結すると作動不良となり危険な状態になります。**そのため、冬期に入る前には凍結防止のため必ず点検整備を行い、水分の除去および清掃を実施してください。**

リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備要領

**詳細については各トレーラ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。**

※ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けてください。

一般社団法人日本自動車車体工業会 パンフレットより --抜粋--

リレー・バルブのメンテナンス



リレー・エマージェンシ・バルブ  
(リレー・バルブ、ヒータ付)



カバー内部の水分は除去し、清掃のうえグリスアップください。パッキン類は傷が付いていたり、摩耗していたら交換してください。

(カバー内部の水分)

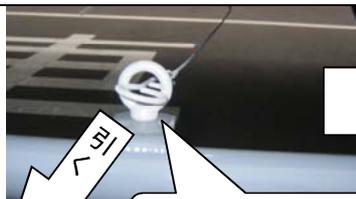
厳冬時に「ブレーキ作動(圧縮)⇔ブレーキ解放(膨張)」などのエア流れにより、内部の水分が凍結します！それを防止するために、リレー・バルブのメンテナンスを行い、水分除去に努めてください。

エアタンクからの水抜き

※エア・タンクの凝水(ぎょうすい:水蒸気が凝縮(ぎょうしゅく)して出てきた水)

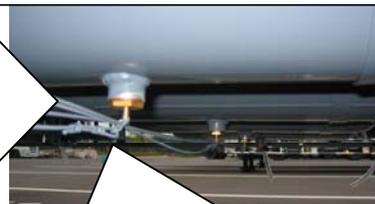
●凝水の確認・・・法定点検項目(日常、3ヶ月毎、1年毎)

エア・タンクのドレン・ワイヤ  
(サイドガード部等)



①(日常点検)  
ドレン・ワイヤを引く。

エア・タンクのドレン・バルブ  
(エアタンク下部)



②(日常点検)  
ドレン・バルブからの凝水を確認し、油混じりの水ではないか確認してください。また、ドレン・バルブ周りに油が付着して居ないかについても確認してください。

※ エア・タンク内に凝水や、油混じりの凝水が溜まっていると、ブレーキ制御機器が十分に作動せず、機器内での凍結、誤作動、故障等の原因となります。運行前には必ず凝水がない事を確認し、エア・タンク内を常に清浄な状態に保ってください。

※ 車両に搭載されたエア・タンクの個数を確認してください。必ず全てのエア・タンクの凝水や、ドレン・バルブ周りの油付着状況を確認してください。